

年月日 2008年1月13日(火)

場所 福岡県 飯塚市役所

担当者 井川 義経 (議会議務局長)

中村 達也 (経済部産業振興課課長)

久々保 芳彦 (課長補佐)

家入 雄一郎 (主任)

目的 飯塚市の新産業創出に取り組みたい

飯塚市の概要

人口 123,541人 (男性 59,070人 女性 64,471人)

生産年齢人口(15-64歳) 68,365人

出生率 1.51

世帯数 64,482世帯

面積 213.96 km²

飯塚市の特長

- 市内に理工系大学2校を有し、大学力を活かした情報産業都市づくりを推進

市人口の約37%を占める約4600人の学生・研究者が集積

- ベンチャー企業・誘致集積

約50社が集積 半数以上は情報通信業が占めている

○産業支援機関：県・市・民間へインフュージョン施設等が充実

- ×大生を中心とした起業家育成支援（補助金等）
- ×市内ベンチャー企業等へ創業支援（融資等）
- ×ベンチャー企業等へ成長支援（補助金等）

○創隊市グループチェーン推進宣言 2021. 11. 15

○フクイカ・グループチェーン・アライアンス設立 2021. 11. ~

○創隊市産業官産業共創ビジョン（2022-2026）

裾野の拡大、ビジネス開発を経て、新産業創出
エコシステム形成を目指す。

技術者、学生への育成、

市民への認知拡大、秋田県形成

所感
○グループチェーンを活用してまちづくり

江戸時代 長崎街道随一の宿場町として繁栄

明治時代 石炭産業、坑産炭田、全国一の出炭量、人口急増

昭和時代 エネルギー革命、炭鉱閉山による疲弊、
企業、入学の誘致

平成時代 ベンチャー企業、研究施設産業支援機関の集積

令和時代 新産業の創出と歴史を振り返りながら

現在 人材育成→産業形成→まちづくりとよくサイクル

させながら、グループチェーンも活用してまちづくりを推進

している事に感謝を込めて、秋田市も閉塞感

漂う現状から、脱却しなければならぬとの念を

強く持ちまわす

視察・研修報告書

年月日

2008年1月14日(水)

場所

福岡県みやま市役所

出席者

久保井 千代 (議会議務局長)

田中 裕樹 (参事)(事業推進部部長)

副島 智夫 (環境政策課 主査)

目的

みやま市みやまスズ-ト エネルギー について

みやま市の概要

人口 34,026人

世帯数 14,689世帯

生産人口 50.03%

出生率 1.43

面積 105.21 km²

日照時間 年間 2,066時間 (過去10年間の平均値)

電力会社設置までの流れ

① みやま市の抱えた課題 少子高齢化、人口減少、子育て支援、高齢者支援、雇用対策

② 電力全面自由化 (2015年4月2日 閣議決定)

③ 発電事業 平戸地(10ha) 16年間塩漬地、土地を活用

×ガソリン-施設の新設 5000 KW 2013年7月稼働

新、1.5MW太陽光 100KW 2018年稼働

新、2.5MW太陽光 1.8/0 KW 2021年稼働

大規模HEMS(ハムス)情報基盤整備事業への参加

< 本町、エネルギー、まちづくり >

2015年 みやまスズ-ト エネルギー (株) 設立

。現在運営状況

令和6年度売上高 20億円

雇用 33名

二酸化炭素排出量 2021年度 $\times$ 国 $\times$ 目標(2030年
46%削減)を上回る 48.4%削減を達成
エコカー $\times$ 推進事業補助金 最大80万円

所感

スマート工場 $\times$ 導入前 $\times$ 年間40億円 $\times$
市外 $\times$ 九州電力 $\times$ 流出して〜

現在 $\times$ 20億円 $\times$ 市内 $\times$ 循環 $\times$ 。まち $\times$ 活性化
に寄与して〜。雇用が生まれて〜。そして
更 $\times$ 新規 $\times$ 。

地球温暖化 CO₂削減に $\times$ 人 $\times$ に貢献して〜。

閉塞感漂 $\times$ 大槻市もまち $\times$ 活性化に向けて
対策 $\times$ 早急 $\times$ 取り組む必要性を強く感じました。

視察・研修報告書

年月日 2008年1月15日(木)

場所 熊本県 荒尾市役所

出席者 田代 英之 (議会議務局長)

山下 泰裕 (次長)

前畑 薫 乃 (書記)

島本 賢一 (スマートシティ推進室室長)

丸本 達也 (スマートシティ推進室参事)

目的 荒尾ウェルビーイング・スマートシティについて

荒尾市概要

人口 49,641人 (男性23,522人 女性26,119人)

生産年齢人口 25,530 51.43%

出生率 1.60

世帯数 23,997 世帯

面積 52.37 km²

荒尾市の変遷

かつては石炭産業(三井池田炭鉱)で繁栄した
閉山後は産業生活基盤の整備や企業施設を囲む
滞在型レジャーゾーン形成や大型ショッピングセンター
への集約等によりソフト産業への転換を図る。更に
炭鉱住宅跡地を活用した住宅地の造成。更には
競馬場跡地(135HA)を海洋スマートタウンとして
道へ駅、保健センター(複合施設)、スーパー、宿泊施設等
の整備を進めている(令和5年道へ駅オープン)
現在「切れ目のない充実した子育て環境を作る」「誰もが
健康で暮らせる社会を作る」「雇用確保と所得向上で安定
した暮らしをつくる」「荒尾ファンを作る」「自然と共生し
た環境をつくる」「先進的で持続可能なまちをつくる」の5つの取組を
推進している。

所感~

市人口は 57.37km² と 美根市 (170.46km²) と比較し 33.6% とコンパクトであり、地形も風光明媚である。

人口は 49641人、人口密度は 865.3人/km² である。現在は近隣市(大牟田市等)へのドラスティックな機能を持っている。又、九州全体が情報通信技術に熟練しており、ウェルビーイング、スマートシティづくりに繋がっている。美根市はコンパクトシティづくりに取り組んでいるが是非しっかりと、まちづくりをしてほしいと強く感じました。